



ンエルターが
唯一の行き先

が集まり、その中で暴力や乗物圍取りなどの問題が絶えないという。

刑務所から出所して行くところが無い人は、公的ホームレスシェルター（保護施設）が行くように指導される。そのこととは厳しい環境であるホームレスシェルター。

、刑期を終えたばかりの人として、公的に保障された一歩の行き先であるかもしれぬ。しかし、ホームレスシェルターは、一時的な保護施設で（WFSFH）は、一二のサーポータータイプハウジング

NYの老人ホームレスとNPO >下<

（計二〇〇室で約一六〇〇人が居住）を運営する。一九七六年ローラ・ジャービスが設立したこのNPOは、高齢者専用ホームレスシェルターを運営しており、サーポーターハウジングのスタッフにはホームレスだった人も多い。

レスがいたのであるか。W S F S S H 所長のリサ・ヒルさんによれば、高齢者ホームレスはニューヨーク市のような都会をはじめ全米に広がる。都心の問題であり、三つの理由が考えられるという。

一つ目は、都心部での住宅不足、二つ目は、政府が中流市から事業拡大の要請も

行政との連携がカギ握る

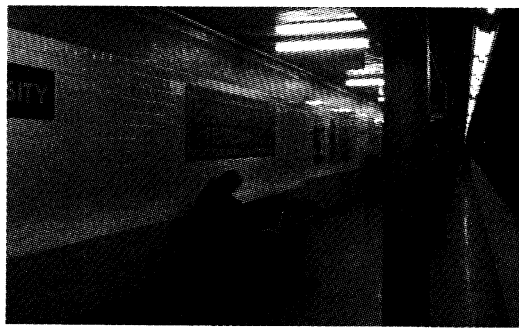
なぜ高齢者ホームレスがいるのか

所得層を対象にした政策を推進しており、低所得の高齢者が現存の制度を利用しにくい。アメリカでは高齢者の年金に加え、一九六〇年代以降、医療、所得援助、年齢差別撤廃などの高齢者政策が整い、高齢者の貧困率は低下しているのに、なぜ、高齢者ホームレスがいるのか

所得層を対象にした政策を推進しており、低所得の高齢者が現存の制度を利用しにくい。アメリカでは高齢者の年金に加え、一九六〇年代以降、医療、所得援助、年齢差別撤廃などの高齢者政策が整い、高齢者の貧困率は低下しているのに、なぜ、高齢者ホームレスがいるのか

のがWFSFHのようなNPOである。最近では、一九八〇年代から増加したエイズ患者専用サーポータータイプハウジングの運営も手がける。ニューヨーク市はこれらの事業を委託する

形になっている。リサさんによれば、高齢者やエイズ患者の住宅問題が深刻化しているため、ニューヨーク市からなる事業拡大の要請を尋ねているという。



ぐすは珍しく、ホームレスは地下鉄で寝ている人が増え、駅内ホームレスが取り締まるため、ホームレスは困窮した

行政とNPOのパートナーシップが社会問題の解決に重要な鍵を握っている。（こ項おわり）
（ウイマラ）
（ミリア）
（Pポラン）
（ミアコン）
（ルトント）